日刊 動労千葉

84. 6. 26

No. 1674

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！ 三里塚ジェット闘争勝利！

トマホーク阻止 中曽根倒せ 6・24集会に2万5千人

「反戦反核・三里塚―国鉄決戦」勝利の路線をかかげて、動労千葉 一七〇名で連続決起

6・24中央実行委員会主催による「トマホーク配備反対、非核三原則厳守、日本を核戦場にするな！ 6・24中央集会」が、二四日（13時）東京・明治公園において二万五千人の労働者・市民を結集して盛大に開催されました。6・3横須賀現地闘争、6・15日比谷野音集会→国会デモを各々三五名、二一〇名の決起をもって闘ってきた動労千葉は、この日も全支部からの一七〇名の連続決起の隊列で堂々と登場し、会場をゆるがす戦闘的なデモンストレーションをおこないながら集会参加をしました。入場する動労千葉の隊列に対して会場をうめた集会参加者から期せずして大きな拍手がまきおこりました。〝動労千葉ガンバレ〟という激励と歓声をうけながら、千葉県労連の仲間と合流し、動労千葉は終始千葉県労連の最先頭で闘いぬきました。

青年部、五千枚の会場ビラまきを貫徹

全支部からの動員者は、駅構内で三〇分間の独自集会の意志統一の後、会場である明治公園にむかいました。全員が作業上衣とゼッケンを着用し、青年部はヘルメット姿で、「トマホーク阻止・中曽根打倒」のかけ声も勇ましく、鉄輪旗と大横断幕をおしたてて会場内デモをおこないました。

「核トマホークの実戦配備阻止」「反動中曽根をうち倒せ」「今秋三里塚二期着工阻止」「国鉄分割・民営化阻止、首きり大合理化粉砕」「過員首きり・労働強化を要求する動労『本部』革マルの『労使会議』方針を粉砕せよ」と訴えた持参の五千枚のビラは青年部によってまたたく間にまき尽くされ、ビラを受けとった集会参加者はくいいるように読んでいました。

集会では、主催者を代表して黒川総評議長が、「ロン（レーガン）とヤス（中曽根）の約束は勝手だが、反トマホークの運動には人類の存亡がかかっている。

日本は世界最初の被爆国であり、84年原水禁世界大会成功にむけて草の根運動として最後まで頑張っていく」と挨拶しました。

連帯の挨拶、反核の構成詩・歌、地域報告がおこなわれ、集会アッピールが満場の拍手で確認されて、15時中央集会が終了しました。

デモは新宿コース・渋谷コースの2方面にわかれて行なわれ、動労千葉は千葉県労連の牽引車として渋谷コースを行進し、文字通り渋谷を席けんする戦闘的なデモを貫徹しました。

反戦闘争から完全に逃亡した動労「本部」革マル

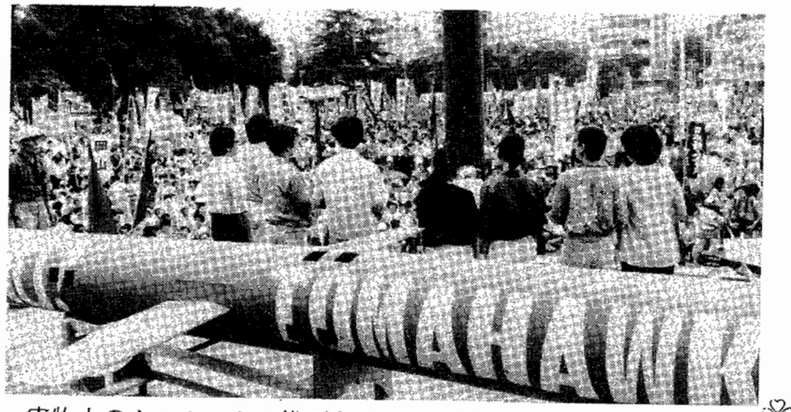
動労「本部」革マルは、6・24集会から完全に逃亡し、集会開始後、わずか十数人が私服で会場の片隅からこそこそと公労協の中にまぎれこみ、一本の旗をたてるのみというおそまつさで、参加者からあきれられていました。そもそもタッタの一度だけ（6月6日付『動力車新聞』の「主張」欄で〝第39回大会決定方針〟であるなどといいながら全く組織的に取り組まず、彼らの「反戦、反核、反トマホーク」なるものが全くのペテンであることを満天下に暴露しました。

すなわち、彼らは自民党・財界と一体となって国鉄版〝再建フォーラム〟なる「労使一体＝経営参加」方針をうち出し、労働者の敵の側に階級移行したこと、そして、自らの反階級的裏切りをインペイするためにのみ「反戦」のお題目をペテン的にかかげるという反動的な腐敗した姿をさらけ出したのです。

彼らは、人民の血叫びである反戦・反核・反トマホークの運動を自民党と手を組んで圧殺し、軍事大国化―核武装化への道をはき清めているのです。

いまこそ怒りをこめて、労働者・人民の敵＝動労「本部」革マルを一掃しようではありませんか。

「トマホーク阻止、反戦・反核の砦＝三里塚で中曽根倒せ！」の横断幕おしたて、デモに出発。


実物大のトマホークの模型を前に、核廃絶を訴える「構成詩」。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！